（様　式）

令和5年度　学校評価書

学校名：静岡市立清水小島小

	大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育準備委員会等）	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動	【視点1】 学校の教育目標を グループ校で共有する	知・徳・体のバランスのとれた力を 身につけた子 ～共に高め合う喜びを実感できる子～	①　（指標1）「学校に行くのが楽しいと思う」児童生徒の割合 （学校説明）児童89%（保護者95%） 重点目標実現に向けて、「じまん」を合言葉に自分と相手のよさを認める姿勢を大切に活動した。自分のよさを自覚し、その子なりの楽しさを感じる子どもがいる一方、1割の子どもが楽しさを感じることができていないことは、見過ごせない事実としてして受け止めている。地域・家庭と連携しながら子どもをまるごと受け止め、どの子どもにとっても楽しさを感じることができる学校を引き続き目指していきたい。	B	**＜学校教育目標＞** 子供にとって、勉強だけでなく、なにか一つ好きというのがあるのが大事だと思う。友達でも、先生でも、授業でも、一つあれば生きがいになる。 **＜知の軸　＞** ICTの環境が充実していく中で、喋ったり、もどかしさを感じたりと、小島の話型を始めとして、難しい時代になってきている。 **＜自己肯定感を高める指導＞** 丁寧に掃除をしていたり、委員会の子たちが段取りよくやっていたりする姿がある。毎日の活動全体で子どもたちのやり取りを通じて、相手のよいところを認めたり、自分ができたことを感じたりする場面がある。今後もその場を設定し続けていけたら嬉しい。 帰りの会で友達のよいところを紹介する点で、言ってもらったことを子供は覚えている。友達に認めてもらうことが、大人に褒められることより嬉しいことなのかと思う。それがじまん、自信につながればと思う。 **＜体の軸　メディアルール＞** 園児も小学生も、兄弟が関わって遊んでいるというのが見えた。とてもいい取組。ただ、チャレンジデーの日はよいが、他の日にどうしていったらよいかについても考えていかなければならない。 **＜自分たちで創り上げる行事＞** 運動会、音楽会に参加して、音楽会に参加して終わったあと、子どもたちが満足そうな自信にあふれる表情が見られた。自分たちで創り上げることを実感したことが多かったのではないか。　子供の主体性を感じる。 **＜小島地区教育振興会・たてわり活動＞** 小島地区として継続して連携を図っている。行事を通して、地域、園、小中学校と、縦と横のつながりを子供たちは自然に意識できている。園児は小学校のいろいろな学年と交流して、小学校に親しみを感じている。コロナ後に復活した活動や新たなつながりが生まれてよかった。 子供が企画したドロケイ大会は、子どもたちが企画して自分たちで実行している姿にホッとした。子供たちはよい顔をしていた。 学校を離れたところでもたてわりの中で仲良くなった子が繋がっていて、すごくよい。さりげなく、6年生が1年生のお世話をする姿が見られ、低学年の子が安心して頼ったり、甘えたり、高学年がかわいがってお世話をしていたりする姿が今後も続いていけたらよい。 **＜地域とのかかわりを深める教育活動＞** 地域との連携等、先生方が工夫してくださっている。学校との連携は、人が減っていく中でみんなで生きることを実感する場所になる。たまたまここに生まれたというだけだが、地域と交わる機会がいただけるとありがたい。 地域の保護者の中には出番を待っている人がいるので、活用していただきたい。 **＜しずおか学　防災＞** 高学年が具体的に考えることが課題として挙げられるが、大人も同じように、何ができるかを考えなければいけない。考えるきっかけをもらえたというところでありがたい。ここの学校の子どもたちは素直なので、頼まれたらきちんとやってくれたりするが、非常時に自分で考えることに慣れていないと思うので、きっかけとして具体的に何かを考えられるという機会の設定を、引き続きお願いしたい。 園でも地震があったらどうするかを毎月訓練している。自分の命を守ろうとしている。高学年の自主的な行動を期待している。 命の袋は子ども自身が実際に家族と離れて学校で過ごすということを現実的に、考えるよいきっかけになったと思う。今後も続けてほしい。 **＜勤務時間管理の徹底＞** 勤務時間の管理は毎年心配している。先生方に幸せにしていただきたい。学校が多忙という現状の中で工夫した取り組みが見られる。働き方改革は難しくて、私達も改革できていないところがある。職員が少ないと分掌が多くて大変だが、自分たちで考えていかなければならない。その意味でOGC（オジマグッドカード）の取組はとてもよい。 **＜学校の実態に応じた支援体制づくり＞** 授業を受けている子どもたちの表情のよさが、授業の充実を物語っている。 **＜信頼される学校づくりの推進＞** 今年度も悪い話を耳にしない。保護者の方も安心していると感じる。情報発信も大変多い。子供の口からも愚痴めいたことが聞こえてこない。その様子に安心している。 tetoruでの配信は、保護者が直接情報を得られるような形で対応してくださっているのでありがたい。ホームページは学校の様子を写真付きでたくさん見られるもので、見ていてすごく楽しい。ペーパーレスになってもっと直接情報が入るとよい。	**＜じまんをつくり、共に認め合い高まる子＞** 教育活動のすべての場面において、知・徳・体の様々な視点からその子の個性や可能性、よさや強みを認め、価値付ける。また「こども面談」をはじめとして、自分や友達のよさを自覚・更新させる場を設定し、子どもたちの自己肯定感・自己有用感・主体性・協働性・多様性の醸成を目指すことで、すべての子どもにとって学校が楽しいと感じられる場にする。 **＜共に伝え合い、深めていく子＞** ・対話の中身を膨らませていくために、小島中グループの「聴く・話す」系統表を参考にして、気づいたことや関連返したいことなどの具体的な伝え方を子どもたちに紹介し、活用していくようにする。□ ・子どもが「わかる」授業を展開するために、視覚的な資料の提示やどのような授業をやったのかがわかる板書の工夫などを引き続き行っていく。□ □ **＜自己肯定感を高める指導＞** ・ステージごとにめあてシートを作り、自分が頑張ったことや自慢を書き込むなどすることで、自分の良さと成長を自覚できるようにする。 ・挨拶や掃除など、生活の様々な場面で、子ども同士が友達のよいところを見つけ伝える場（昼の放送や帰りの会）を設けるようにする。 ・教師は、授業や休み時間、掃除など学校生活中の様々な場で、ひとりひとりの子どもの良さを見つけるように心がけ、子ども面談や日々の中で伝え褒めるように心がける。 ・たてわり活動や委員会活動、クラブ活動などの場で、教師は子どもの表れをよく見て、良さを見つけることを心がけ、子どもが、担任ではない教師からも褒められる場ができるようにする。　・ **〈体の軸（メディアルール）〉** ・メディアチャレンジは小島地区で継続し取り組んでいく。取り組む項目や実施時期、実施日時については検討する。 ・健康な生活を送るために、メディアチャレンジのみでなく、生活習慣や生活リズムと関連づけた取組をしていく。 **＜自分たちで創り上げる行事＞** ・運動会を自分たちが主役として活動する中で、会の司会進行、運営面に対しても主体的に取り組むことができるよう工夫をする。また、その経験を生かし、創立150周年記念式典に子どもたちの企画を盛り込み、自分たちで成功させるように支援する。 ・委員会活動や縦割り活動を通して、上級生のリーダーシップを育てるとともに、学年の枠を超えた信頼関係を築く。 **＜交流活動の推進＞** ・子ども園の活動に児童が積極的に参加するように促し、児童が園児とのかかわりの中で思いやりや優しさを育めるようにする。また、児童の活動を園児に披露したり、発表会に招待するなど、交流を活発にすることで、児童の自己有用感を育む。 ・ICTを活用し、小島地区の学校がそれぞれの挨拶活動の特色を共有し、ともに高めあえる活動にする。 **＜地域の材を活かした教育活動＞** ・教科の学習や総合的な学習等で、地域学校協働活動推進員と連携し、地域の保護者を含めた「人・もの・こと」を積極的に活用することで、本物に触れる機会を増やすとともに、小島への愛着心を育てる。 ・創立150周年記念式典行事に向けて、子供の思いや発想を生かした教育活動を展開し、子供が主体的に取り組む態度を育てていくことで、小島小学校への愛校心を育てるとともに、地域とのつながりを実感させる。 **＜安心・安全な学校生活＞** 前年度同様、月1回の教職員による安全点検と子どもによる安全点検を行っていく。管理職が確認し、用務員が必要に応じて修繕等の対応をすみやかに行っていく。 **＜自己目標で課題を明確にした働き方改革＞** ・校内分掌について「質と量を考慮した適正化」を進めるとともに、組織的・協働的な運営体制を向上させ、互いに支えあえる環境づくりを推進する。 ・計画的年休取得日や定時退庁推進日を主体的に設定し、超過勤務時間削減を目指し、教職員の心身の健康維持に務める。 ・年度当初、分掌等を念頭にした自己目標を明確にし、1年間の見通しを持つ。 **＜自分の命を守る意識と力を育む防災教育の推進＞** ・命の袋の作成・更新を引き続き行い、子供たちが災害を自分ごととして考えるきっかけとする。 ・様々な場面や状況を想定した避難訓練を行い、子ども自身がその場に応じて判断・行動できる力を育てていきたい。
	【視点2】 9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	知の軸：聴き方・伝え方指導 共に伝え合い、深めていく子 ・合い言葉「ボディリス、ハーリス」	②　（独自）「学校の授業がわかると感じる」児童生徒の割合 （学校説明）児童89% 教師は、考えをつくるための手立てや話し合いの手立てなど日々の授業の中で工夫を凝らしてきた。ボディリス・ハーリスに関して児童の達成状況は高く、聴き方の態度の定着が伺える。ただし、根拠をもって書く・話すという点では児童の定着は弱い。引き続き聴く意識を高める指導を継続するとともに、自分の考えをつくる上で、根拠・理由を明確に記す手立ての工夫を行っていきたい。	B		**＜共に伝え合い、深めていく子＞** ・対話の中身を膨らませていくために、小島中グループの「聴く・話す」系統表を参考にして、気づいたことや関連返したいことなどの具体的な伝え方を子どもたちに紹介し、活用していくようにする。□ ・子どもが「わかる」授業を展開するために、視覚的な資料の提示やどのような授業をやったのかがわかる板書の工夫などを引き続き行っていく。□ □
		徳の軸：自己肯定感を高める指導 自分も相手も認め大切にする子 ・振り返り　認め、認められる場の設定	③　（指標14）「自分には、よいところがあると思う」児童生徒の割合 （学校説明）児童88%　△11人　×5人 この指標では、全員の子どもがじまんづくりできることを目指した。そのために、子どもは、ステージごとにめあてシートを作り、生活していく中で、自分ががんばったことやじまんを書き込んだり、がんばったシールを貼ったりすることで、一人一人の自己肯定感が高まることをめざした。そして、教師は、子どものよさや強み、可能性の伸長を見つけ、声を掛けることを心がけた。また、授業、学級活動、児童会活動等様々な場で、子ども同士が友達の良さを見つけ伝える場を設けるようにした。その成果として、88%の子どもが自分の良さを自覚することができた。ただ、11人の子どもたちは、自分の良さに自信をもつことができていない。人数は少ないが、大切にしたい指標なのでBとした。今後、教師はその子たち一人一人の思いを捉え、その子のよさを伝えていかなければならないと考える。	B		**＜自己肯定感を高める指導＞** ・ステージごとにめあてシートを作り、自分が頑張ったことや自慢を書き込むなどすることで、自分の良さと成長を自覚できるようにする。 ・挨拶や掃除など、生活の様々な場面で、子ども同士が友達のよいところを見つけ伝える場（昼の放送や帰りの会）を設けるようにする。 ・教師は、授業や休み時間、掃除など学校生活中の様々な場で、ひとりひとりの子どもの良さを見つけるように心がけ、子ども面談や日々の中で伝え褒めるように心がける。 ・たてわり活動や委員会活動、クラブ活動などの場で、教師は子どもの表れをよく見て、良さを見つけることを心がけ、子どもが、担任ではない教師からも褒められる場ができるようにする。　・
		体の軸：よりよい選択ができる指導 健康な生活を送るためによりよい選択のできる子 ・メディアチャレンジデーの実施	④　（独自）「『わが家のメディアルール』を意識して生活できた」児童生徒の割合 （学校説明）児童83%　保護者87%　教職員67% 子どもたちがメディアとの付き合い方を考え、自分自身でよりよい選択をする力をつけるために行っている「メディアチャレンジデー」は、小島地区で幼小中連携し、ここ数年取り組んでいるため、児童や家庭に定着してきている。メディアチャレンジデーの実施日においては、児童のみではなく、兄弟、家族で取り組んでいる家庭が見られることは、大変よい傾向である。ただ、日常的に「わが家のメディアルールを」意識して生活できているかは疑問である。	B		**〈体の軸（メディアルール）〉** ・メディアチャレンジは小島地区で継続し取り組んでいく。取り組む項目や実施時期、実施日時については検討する。 ・健康な生活を送るために、メディアチャレンジのみでなく、生活習慣や生活リズムと関連づけた取組をしていく。
	【視点3】 児童・生徒の交流、教職員の協働	自分たちで創り上げる行事 運動会・体育祭・小学校３校合同活動・園小中交流活動・入学説明会（生徒会・部活動）	⑤　（独自）「学校の活動に進んで参加していると思う」児童生徒の割合 （学校説明）児童95% 運動会や音楽会などの行事に対して自分なりのめあてをもち、授業時間はもちろん、休み時間を使って自分から進んで練習する姿や、自分たちで合奏練習しようとする姿が見られた。児童集会では、児童会が司会進行をし、各委員会が発表する場として、子どもが自分たちで集会を運営する意識をもって取り組むことができた。	A		**＜自分たちで創り上げる行事＞** ・運動会を自分たちが主役として活動する中で、会の司会進行、運営面に対しても主体的に取り組むことができるよう工夫をする。また、その経験を生かし、創立150周年記念式典に子どもたちの企画を盛り込み、自分たちで成功させるように支援する。 ・委員会活動や縦割り活動を通して、上級生のリーダーシップを育てるとともに、学年の枠を超えた信頼関係を築く。
		小島地区教育振興会の活動 小島地区園小中一貫教育構想・指導構想 小中合同研修、地区３部（学び・心・健康づくり部）の組織的活動・協働	⑥　（指標23）「学年や校種の枠を越えて、連携を図っている」教職員の割合 （学校説明）100% 今年度もたてわり活動では読み聞かせや遊びを継続して行った。低学年の子どもたちは読み聞かせを楽しみにする姿が見られ、学年を越えてかかわる姿が見られた。低学年、中学年、高学年の学年団では、運動会をはじめ、各行事で協力して取り組むことができた。小島地区としては、小学校3校合同で社会科見学や鑑賞教室を実施したり、小島中の合唱祭に参加したりして、幼小中の様子を見ることができた。挨拶推進校として、各学校の取組を動画で紹介し合い、お互いの様子を知ることができ、自分たちの活動を見直して挨拶に取り組むことができた。	A		**＜交流活動の推進＞** ・子ども園の活動に児童が積極的に参加するように促し、児童が園児とのかかわりの中で思いやりや優しさを育めるようにする。また、児童の活動を園児に披露したり、発表会に招待するなど、交流を活発にすることで、児童の自己有用感を育む。 ・ICTを活用し、小島地区の学校がそれぞれの挨拶活動の特色を共有し、ともに高めあえる活動にする。
	【視点4】 地域との連携	地域とのかかわりを深める教育活動	⑦　（独自）「小島のいいところを知っている」児童生徒の割合 （学校説明）児童93% 生活科や総合、社会の授業を中心に地域を生かした教育活動に取り組んできた。また、小島地区の風土に支えられ、子どもたちは日常的に地域のよさを感じられる環境にいる。小島地区のこのよさや強みを生かして、次年度もより地域と関わりながら教育活動を進めていきたい。	A		**＜地域の材を活かした教育活動＞** ・教科の学習や総合的な学習等で、地域学校協働活動推進員と連携し、地域の保護者を含めた「人・もの・こと」を積極的に活用することで、本物に触れる機会を増やすとともに、小島への愛着心を育てる。 ・創立150周年記念式典行事に向けて、子供の思いや発想を生かした教育活動を展開し、子供が主体的に取り組む態度を育てていくことで、小島小学校への愛校心を育てるとともに、地域とのつながりを実感させる。
	学校環境	安心・安全な学校環境の整備	⑧　（独自）「安心・安全な学校生活が送れていると感じる」児童生徒の割合 （学校説明）児童 95% 月1回の教職員による安全点検と子どもによる安全点検を行っている。点検終了後、管理職が確認し、用務員が必要に応じて修繕等の対応をすみやかに行っている。	A		**＜安心・安全な学校生活＞** 前年度同様、月1回の教職員による安全点検と子どもによる安全点検を行っていく。管理職が確認し、用務員が必要に応じて修繕等の対応をすみやかに行っていく。
		（小）勤務時間管理の徹底 （教職員のメンタルヘルス） （中）学校指導体制の整備 （部活動ガイドラインの遵守）	⑨　（独自）「自己目標で課題を明確にして、働き方改革に努めている」教職員の割合 （学校説明）職員44% 学級（学年）経営に加え、比較的多めに割り振られた分掌について、目標達成に向けた見通しがある取組をしている職員がとても多いと感じている。一方で、子供の成長を願いより良い成果を求めすぎる傾向があり、時間の超過に繋がっている。（超過時間：月平均36.66h、前年比4.5%up）	B		**＜自己目標で課題を明確にした働き方改革＞** ・校内分掌について「質と量を考慮した適正化」を進めるとともに、組織的・協働的な運営体制を向上させ、互いに支えあえる環境づくりを推進する。 ・計画的年休取得日や定時退庁推進日を主体的に設定し、超過勤務時間削減を目指し、教職員の心身の健康維持に務める。 ・年度当初、分掌等を念頭にした自己目標を明確にし、1年間の見通しを持つ。
	グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標	自己評価		
	・しずおか学「防災」		⑩　（独自）「命を守り、地域を守る意識が高まったと思う」児童生徒の割合 （学校説明）1～4年　95%　5，6年　87% 今年度はスモークハウスや消火体験など、4月当初に体験活動を取り入れることで防災意識の向上を図った。　高学年は、自分の命を守ることに加え、周りの人々の安全を考えることも求められるため、災害時に自分に何ができるのか、具体的に考えることが課題として挙げられる。	B		**＜自分の命を守る意識と力を育む防災教育の推進＞** ・命の袋の作成・更新を引き続き行い、子供たちが災害を自分ごととして考えるきっかけとする。 ・様々な場面や状況を想定した避難訓練を行い、子ども自身がその場に応じて判断・行動できる力を育てていきたい。
各学校の評価	大項目	中項目	評価指標	自己評価		改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
	教育相談 （個に応じた指導）	学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進	⑪（独自）「子どもを丸ごと認め、価値づけることができていると感じる」教職員の割合 （学校説明）職員　100%（子ども93%　保護者96%） それぞれのこどもの特性を探り、学習活動だけでなく学校生活全般できる限り価値をして、その場でこどもに声を掛けるようにしている。一人一人をどこで活躍させたら良いかを常に考えながら、子どもたちと関わっている。次年度も個に応じた指導を継続していく。今年度は、特別支援級の開級もスムーズに行われ、子どもたちも交流級で自然なかかわりができている。	A	**＜学校の実態に応じた支援体制づくり＞** 授業を受けている子どもたちの表情のよさが、授業の充実を物語っている。 **＜信頼される学校づくりの推進＞** 今年度も悪い話を耳にしない。保護者の方も安心していると感じる。情報発信も大変多い。子供の口からも愚痴めいたことが聞こえてこない。その様子に安心している。 tetoruでの配信は、保護者が直接情報を得られるような形で対応してくださっているのでありがたい。ホームページは学校の様子を写真付きでたくさん見られるもので、見ていてすごく楽しい。ペーパーレスになってもっと直接情報が入るとよい。	**＜多様性を認める＞** ・「全職員で全児童を育てる」という意識を大切に、学級担任だけでなく、全職員がそれぞれの立場や視点から子どもの様子をとらえ、共有していくことで、児童がありのままの自分を認め、肯定感をもてるよう支援していく。 ・地域ぐるみで子どもを育てるという、小島地区の最大の強みを活かし、学校・地域・家庭と一体となって子どもを支えていく。 **＜情報発信・真摯な受信＞** ・学校だより、HP,メール配信、GoogleClassroom等、様々な媒体を活用して、積極的な情報発信に務める。 ・懇談会や連絡帳、学校への電話連絡等、家庭・地域からの思いや願いの真摯な受信に努める。
	保護者・地域住民等との連携	信頼される学校づくりの推進	⑫（独自）「学校からの便りやホームページ、参観会等で学校の様子がわかる」保護者の割合 （学校説明）100% 学級では学級の保護者に対して音読カードへのコメントや電話連絡等、丁寧に対応している。学校全体では、学校だよりを配信したり、ホームページを頻繁に更新したりと保護者が情報を得やすい方法で、情報を発信していてとてもよいと思うという意見が多く見られた。次年度も引き続き丁寧に対応していきたい。	A		

静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動（全国調査等の活用）	学力の状況 （全国学力・学習状況調査）	小学校	（学校説明）三校に共通して、自分の考えや式の意味を端的に説明する力に課題が見られる。 **〈小河内〉**【国語】文章を読んで自分の考えをまとめて書くことがおおむねできている一方、漢字を文章中で正しく使うことに課題が見られた。 【算数】百分率で表された割合や図形での底辺と面積の関係を考える問題に課題が見られた。 **〈小島〉**【国語】複数の情報を基に、その関係性を理解して考えたり、導き出された結果を活用したりする力に課題が見られた。 【算数】百分率で表された割合は十分な定着が見られた。一方で公式や計算方法などについて、その意味や理由を順序よく、具体的にイメージすることに課題が見 られた。 **〈宍原〉**【国語】文章を的確に読み取ったり、必要な情報を見つけたりすることはできているが、読み取った内容をもとに、自分の考えを条件に合わせて文章で書くことに課題が見られた。 【算数】「数と計算」「図形」領域の知識・技能の定着は図られている一方、「比例」「割合」領域や求め方を式や言葉を用いて説明する「記述式」の問題に課題が見られた。	**＜学力の状況＞** どのようにしたら子供に根拠をもって話す力を育てられるのか、大人も考えていかなければならない。この力は中学にも響いてきている。少しでも改善されたらよい。家庭では、スマホを親子ともに使用してばかりでは会話力が付かないのではないか。 **＜体力の状況＞** 苦手意識をもっている子に「わかった・できた」を実感させることが大事。学校は朝から毎日運動に取り組んでいる。 ここ何年も2極化の傾向にあると感じる。体力や持久力は一朝一夕で付くものではない。学校だけではなく、保護者の意識も必要になる部分。学校から家庭との協力を働きかけてもらえるとありがたい。体を使うのが大好きな子がいても地域の中に体を思い切り動かせる環境がないのが辛いところ。 **＜生活指導＞** 生活指導については、様々な面で丁寧に意識してやっている。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） **＜多角的・多面的に考える＞** 他者の意見や思いについて考える活動を意図的に取り入れるなどして、独善的な思考に繋がらないように指導を続けていく。 **＜読書の推進＞** 読書量は、読解力や文章構成力に繋がるため、意図的に文章（長文や図・表、詩や俳句など）に触れる機会を創出していく。 **＜学習の振り返り、見直し、応用＞** ドリルなどの練習問題をするだけでなく、学習内容を振り返り、端的にまとめる活動や前時までの学習を意図的に振り返る機会を作るなど、学びが螺旋状に繰り返される授業展開等に力を入れていく。
		中学校	【国語】全般的に全国平均よりも低い傾向にある。知識や経験にふれながら書くことについては、全国平均よりも高い正答率（+5.8）だった。一方で、文章の要旨をまとめることや、複数の資料を読み比べて共通点や表現の効果について説明することに課題がみられた。 【数学】全般的に全国平均よりも低い傾向にある。特に、基本的な計算や公式、用語、新しい記号の理解など、繰り返して学習していくことで身につくことが定着していない。授業で学習した時点では理解していても、繰り返して学習する習慣がついていないために、時間と共に定着度が低くなっている傾向が見られた。 【英語】全体的に全国平均よりも低い傾向にある。まとまりのある英文を読んで正しく内容をつかんだり、自分の伝えたい内容を英文にしたりする力が弱い。授業ではわかった単語や表現などが身についていないところが見られる。基本的な事項を復習していく必要があることがわかった。		
	体力の状況 （新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査）	小学校	（学校説明）三校に共通して、昨年度と同様、個人差が大きいことが挙げられる。特に技能面においてはその差が顕著である。 ＜小島＞意欲面、技能面ともに二極化が進んでおり、個人の差が大きいことは、全ての学年に共通している。 ＜小河内＞意欲的に運動に取り組む子は多いが、技能面では個人差が大きい。新体力テストの結果はD、D評価が大半を占めている。 ＜宍原＞意欲的に運動に取り組む子が多い。50m走や柔軟性に課題がある。技能面では、どの分野においても個人差が大きい。		
		中学校	1年生は、「握力・長座体前屈・立ち幅跳び」が低い傾向にある。「反復横跳び」はよくできていた（得点平均6.9）。2年生は、「握力・持久走」が低い傾向にある。「反復横跳び」はよくできていた（得点平均7.1）。3年生は、「持久走」が低い傾向にある。「長座体前屈」はよくできていた（得点平均7.9）。 泳力やボールを使った運動も苦手な傾向がある。 小学校段階から継続して様々な運動を経験し、中学校運動能力の向上に努めていきたい。		
	生徒指導の状況 （学校いじめ防止基本方針）		清水小島小学校いじめ防止基本方針」や「小島小のきまり」をホームページに掲載し、子どもの安心・安全を守る体制について学校・地域・保護者と共通理解を図れるようにしている。 ・道徳の授業を保護者に年に1回公開している。また、道徳に授業のねらいと学級の実態とを関係付けて懇談会で話すことにより、学級の課題や今後の教師の方向付けなどについて保護者の理解・協力を得られる機会となっている。 ・悩みごと調査（年に3回）を行った後は、生徒指導担当部会で全児童の回答を確認し、必要があれば担任を含め、対応の仕方について考え、改善へと取り組んでいる。 ・すこやか育み部会（月1回）で、各クラスの子どもたちの様子を共有している。		改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） **＜体育授業の充実＞** ・今年度に引き続き、登校してから始業までの時間を使って、運動の時間を確保していく。また、行事（運動会、チャレンジラニング、チャレンジジャンピング など）に合わせてめあてに向かう場づくりを行う。 ・体育の時間に、どの子も楽しめる工夫やルール設定をして、授業に取り組む。 改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） **＜全職員で全児童を育てる＞** 引き続き、「全職員で全児童を育てる」意識を大切に子ども理解に努める。悩み事調査に加え、職員間の「報・連・相」を徹底することで、子どもの情報を共有しながら、日常的に子ども理解が深められる組織体制を構築していく。